

研究に関する情報公開

＜人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針＞に基づき、研究の実施について情報を公開します。

★本研究に関するご質問等がありましたら下記の＜お問い合わせ窓口＞までご連絡ください。

★ご希望があれば、他の研究対象者※の方の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧いただくことができます。

★試料・情報が当該研究に用いられることについて、研究対象者若しくは研究対象者の代理人の方にご了承いただけない場合には試料・情報を使用いたしませんので、その際は下記の＜お問い合わせ窓口＞までご連絡ください。その場合でも、研究対象者の方に不利益が生じることはありません。

＜研究課題名＞ 卵巣腫瘍術後患者における思春期発来と血中性腺ホルモン値に関する検討
＜研究機関・研究責任者名＞ 日本大学医学部外科学系小児外科学分野（附属板橋病院小児外科） 平野 隆幸
＜研究期間＞ 機関の長の初回許可日 ～ 令和 10 （西暦 2028）年 3 月 31 日
＜対象となる方＞ 2014 年 1 月 1 日から 2026 年 12 月 31 日までの期間で、手術時年齢は 0 歳から 15 歳までの間で、卵巣腫瘍に対して手術をうけた方。
＜研究の目的＞ 小児期に卵巣腫瘍手術を受けた方を対象に、血中性腺刺激ホルモン（LH、FSH）およびエストラジオール値に異常がないかどうか、月経発来異常があるかどうかを確かめる研究を行います。
＜研究の方法＞ カルテ情報を利用します。病名を検索し、手術時年齢、片側性か両側性か、腫瘍茎捻転があったかどうか、術式（付属器切除術および腫瘍核出術）、病理組織学的診断を抽出します。そして、思春期早期の 12 歳から思春期後期の 17 歳までの期間での月経異常の有無、血中刺激ホルモンとエストラジオールの値を抽出します。そのデータを集めて統計学的解析を行い、手術によってこれらのホルモン値や月経発来に影響したのか、また、手術内容の違いがデータの変化と関連しているかを検討する研究を行います。血液検査のデータを使用しておりますが、通常の外來診療における経過観察目的で行われている定期検査のデータを用います。そのため、この研究のために追加で血液検査が施行されるというような、患者様本人への負担はありません。
＜研究に用いる試料・情報の項目＞ 血液検査（LH 値、FSH 値、エストラジオール値の推移） カルテ情報（手術時年齢、片側性か両側性か、腫瘍茎捻転の有無、術式（付属器切除術および腫瘍核出術）、病理組織学的診断、月経異常の有無）
＜研究を実施する機関組織＞ 日本大学医学部外科学系小児外科学分野（附属板橋病院小児外科） 平野 隆幸
＜お問い合わせ窓口＞ 173-8610 東京都板橋区大谷口上町 30-1 日本大学医学部 外科学系小児外科学分野 平野隆幸 電話（内線）：03-3972-8111（2450） PHS 8160

メール：hirano.takayuki36@nihon-u.ac.jp

※研究対象者とは，以下に該当する方（死者を含む。）を指します。

①研究を実施される方

②研究に用いられることとなる既存試料・情報を取得された方

研究に関する情報公開

＜人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針＞に基づき、研究の実施について情報を公開します。

★本研究に関するご質問等がありましたら下記の＜お問い合わせ窓口＞までご連絡ください。

★ご希望があれば、他の研究対象者※の方の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧いただくことができます。

★試料・情報が当該研究に用いられることについて、研究対象者若しくは研究対象者の代理人の方にご了承いただけない場合には試料・情報を使用いたしませんので、その際は下記の＜お問い合わせ窓口＞までご連絡ください。その場合でも、研究対象者の方に不利益が生じることはありません。

＜研究課題名＞ 卵巣腫瘍術後患者における思春期発来と血中性腺ホルモン値に関する検討
＜研究機関・研究責任者名＞ 日本大学医学部外科学系小児外科学分野（附属板橋病院小児外科） 平野 隆幸
＜研究期間＞ 機関の長の初回許可日 ～ 令和 10 （西暦2028）年 3 月 31 日
＜対象となる方＞ 2014年から2026年の間に、赤ちゃんから中学3年生くらいまでの年齢で、卵巣にできたしこり（腫瘍）の手術を受けた人たち
＜研究の目的＞ 子どもの時に卵巣の手術を受けた人たちについて、以下のことを調べる研究です： 体の中の大切なホルモンの量が正常かどうか 生理（月経）が順調にくるかどうか
＜研究の方法＞ 病院にある診察記録（カルテ）を使って、以下のことを調べます： 手術を受けた時の年齢 卵巣の手術が片方だけか、両方かどうか 卵巣がねじれていたかどうか どんな手術をしたのか 卵巣のしこり（腫瘍）がどんな種類だったのか 12歳から17歳までの間に生理に問題がなかったか 血液検査の結果で体の中のホルモンの量は正常だったか これらの情報を集めて、手術が体に影響を与えたかどうかを調べます。 ※新しく血液検査をするわけではなく、普段の診察で既に調べた結果を使うので、新たな負担はありません。
＜研究に用いる試料・情報の項目＞ 1. 血液検査の結果 体の中の大切なホルモンの量

2. 診察記録から

手術した時の年齢

手術が片方か両方か

卵巣のねじれの有無

手術の方法

しこりの種類

生理の状態

<研究を実施する機関組織>

にほんだいがくいがくぶ げかがくけいしやうにげかがくぶんや おぞくいたばしびやういんしやうにげか ひらの たかゆき
 日本大学医学部外科学系小児外科学分野（附属板橋病院小児外科） 平野 隆幸

<お問い合わせ窓口>

173-8610 東京都板橋区大谷口上町30-1

にほんだいがくいがくぶ げかがくけいしやうにげかがくぶんや ひらのたかゆき
 日本大学医学部 外科学系小児外科学分野 平野隆幸

でんわ ないせん
 電話（内線）：03-3972-8111（2450） PHS 8160

メール：hirano.takayuki36@nihon-u.ac.jp

※研究対象者とは、以下に該当する方（死者を含む。）を指します。

①研究を実施される方

②研究に用いられることとなる既存試料・情報を取得された方